

口腔インプラント学講座

講座名	口腔インプラント学講座	
主任教授	佐々木 穂高	
プログラム責任者名	佐々木 穂高	
プログラム修了時に資格要件を満たす学会認定医等の名称	(公社) 日本口腔インプラント学会 ケースプレゼンテーション試験・JSOI専修医 受験資格 →継続して5年以上の研修・学会所属かつ所定の臨床症例数の実施により (公社) 日本口腔インプラント学会専門医、(公社) 日本顎顔面インプラント学会 認定専門医受験資格	
プログラムの特色	<p>口腔インプラント学は、外科治療・補綴治療・歯周治療をはじめとする多領域の知識・技能を統合し、総合的視点で診療を行うことが求められる学問領域です。当講座では、各歯科医学の基礎から臨床応用までを段階的に身につけ、診療を通じて各分野のつながりを理解・実践することで、インプラント治療を中心とした包括的歯科医療の修得を目指す研修プログラムとなります。また、口腔内スキャナーやダイナミックナビゲーションシステムなどのデジタルデンティストリーを積極的に導入し、さらに骨補綴材など新規バイオマテリアルを用いた再生療法にも取り組んでおり、時代の変化や臨床ニーズに応じた最新の治療法を学べる教育環境を整えているのも大きな特徴です。</p> <p>研修期間は概ね3～4年間で、インプラント治療に必要な知識・技術・態度を一定水準まで確実に修得できます。さらに、研修を継続することで、全額的なインプラント補綴治療、インプラントのトラブル対応、顎補綴を含む広範囲顎骨支持補綴など、より高度で専門性の臨床技能を習得することができ、これらを通して、関連学会が認定する専門医資格の取得にも対応した体系的なプログラムとなっています。</p>	
	プログラムの内容	
	大学院生	臨床専門専修科生・レジデント
1年目	<p>前期(4～9月):</p> <p>【新人研修】 指導医担当患者の共同担当配当 資料採取 (CBCT撮影、IOSスキャナー、インプラントシミュレーション :DTX studio, Codiagnostix、サージカルテンプレート製作など) インプラント埋入手術 間接介助(5症例以上) →直接介助(15症例以上) 実技試験へ インプラント補綴処置 間接介助(5症例以上) →直接介助(15症例以上) 実技試験へ ※口腔インプラント科内ステップアップ制度のステップ3合格を目標とする。(週1日の研究日、患者配当が開始されます。) 【共通研修】症例検討会(隔週火曜)、術前カンファレンス(毎週火曜)、抄読会(隔週火曜)、顎顔面インプラントカンファ(月1) 新人講義(臨床教授・講師)、学内インプラントハンズオンセミナー、学外インプラント講習会、ハンズオンセミナー参加</p> <p>後期(10～3月): 新人研修 ステップ3実技試験合格で患者配当(指導医付き)開始 →症例の難易度に応じて、指導医の指導下でインプラント埋入手術・補綴治療が可能となります。</p> <p>博士課程における研究テーマ決定 →臨床と並行して研究開始</p>	<p>当講座の臨床専門専修科生では、学会認定資格の取得でなく、専門的知識・技能の修得を目的としたリカレント・リスキル教育プログラムもあります。これまでの臨床経験等や研修目的に合わせて、各月の研修日数や期間を個別に相談することも出来ます。 https://www.tdc.ac.jp/college/introduction/tabid/119/Default.aspx</p>
2年目	<p>指導医(認定専門医・臨床教授・講師含む)の指導下でインプラント治療の継続 ※ケースプレゼンテーション試験受験を目標とした1症例の確保(上部構造2年後の症例が適応) 【共通研修】症例検討会(隔週火曜)、術前カンファレンス(毎週火曜)、抄読会(隔週火曜)、顎顔面インプラントカンファ(月1) 新人講義(臨床教授・講師)、学内インプラントハンズオンセミナー、学外インプラント講習会、ハンズオンセミナー参加 学会参加・発表: 日本口腔インプラント学会、日本顎顔面インプラント学会、東京歯科大学学会 他</p> <p>博士課程における研究を継続 →研究成果を研究報告会・学会にて発表</p>	<p>臨床専門専修科生、前期研修プログラムを終了後、希望により千葉歯科大学医療センターへの兼任・異動が可能</p>
3年目	<p>指導医(認定専門医・臨床教授・講師含む)の指導下でインプラント治療の継続 →中等度の難易度(3分の1顎以上欠損症例、マイナーグラフが必要、骨造成を必要としない7歯欠損以上など)の症例対応 ※JSOI専修医を資格取得目標とした5症例の確保(上部構造2年後の症例が適応) ※日本口腔インプラント学会、顎顔面インプラント学会の認定資格症例の確保(上部構造3年後の症例が適応) 【共通研修】症例検討会(隔週火曜)、術前カンファレンス(毎週火曜)、抄読会(隔週火曜)、顎顔面インプラントカンファ(月1) 新人講義(臨床教授・講師)、学内インプラントハンズオンセミナー、学外インプラント講習会、ハンズオンセミナー参加 学会参加・発表: 日本口腔インプラント学会、日本顎顔面インプラント学会、東京歯科大学学会 他</p> <p>博士課程における研究を継続 →研究成果を研究報告会・学会にて発表</p>	<p>本学口腔インプラント科研修修了書の授与(週4日の場合) ※週4日未満の場合は4年目以降となります。</p>
4年目	<p>博士課程最終年度により、研究を最優先とする。 →研究の進捗状況によっては、一部の症例における診療参加は可。学位審査が修了後</p> <p>上部構造装着後2年以上の安定した経過症例が1例以上あれば、 ケースプレゼンテーション試験の受験が可能。 ※上半期までに学位論文の完成が条件となります。</p>	<p>指導医(認定専門医・臨床教授・講師含む)の指導下でインプラント治療の継続 →指導医の共同担当で難易度が高い症例(広範囲顎骨支持型補綴、骨造成を必要とする7歯欠損以上など)対応が可。 上部構造装着後2年以上の安定した経過症例が1例以上あれば、 ケースプレゼンテーション試験の受験が可能。</p>
5年目以降	<p>●指導医(認定専門医・臨床教授・講師含む)の指導下でインプラント治療の継続 →指導医の共同担当で難易度が高い症例(広範囲顎骨支持型補綴、骨造成を必要とする7歯欠損以上など)対応 上部構造装着後2年以上の安定した経過症例が1例以上あれば、ケースプレゼンテーション試験の受験が可能。 →合格後、上部構造装着2年以上の経過症例を5例を提出し、書類審査にて合格することでJSOI専修医を取得。 ●ケースプレゼンテーション試験の合格・JSOI専修医の取得後 →中等度の難易度症例までは、単独(指導医なし)でのインプラント治療が行えるようになります。(執刀医資格の取得) ●各学会指定の専門医取得に向けて →各学会で指定されている条件(症例数・研究業績・学会参加、学会発表)が達成されるように診療・研究を継続していく。 臨床専修科生の場合、臨床研究への参加で研究業績数を達成することが可能です。 担当した症例数、難易度の幅、経過の状況に応じて受験資格の所得時期は異なりますが、入局して通算6年目以降に受験 →日本歯科専門医機構が定める専門医資格取得には、常勤で通算5年間以上の在籍が必要となる可能性があります。(現時点で未定)</p>	
●本務教員で認定医等の有資格者 (指導医・専門医・認定医等の複数の資格の場合には最上位の資格のみを記載)		
(公社) 日本口腔インプラント学会	指導医	佐々木 穂高 伊藤 太一 平野 友基 原田 惇朗 頼岡 廣明
(公社) 日本顎顔面インプラント学会	指導医	古谷 義隆
(公社) 日本歯周病学会	指導医	伊藤 太一